

3.3 経路選択の自由

大建築の中で移動が強いられる場合（美術館など）に「4.1 洞窟型」が設計される場合を除き、取り入れられるべきものの一つである。こと長時間の移動に際し経路選択の自由は訪れる人に散策の楽しさを与える。散策することで人は建物の広さ（巨大さ）を享受することが出来るのである。しかし、注意すべき点は経路選択の自由に際し、サイン計画を充実させることである。

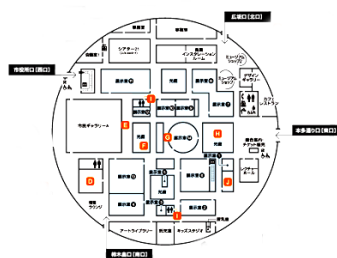


図 金沢21世紀美術館 フロアマップ

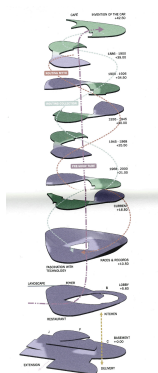


図 ベンツミュージアムの二重螺旋



図 マイツァイル内観写真とフロアマップ（一部）

<金沢21世紀美術館 2002>

SANAA 設計。

「だれもがいつでも立ち寄ることができ、様々な出会いや体験が可能となる公園のような美術館」が美術館の 建築コンセプトである。来館者は四角いボリュームの間を縫うように展示室を巡ることが出来る。

<ベンツ・ミュージアム 2006> ドイツ

前述のメルセデス・ベンツミュージアムでは、巨大な美術館かつ垂直に積み重なった展示室であるにも関わらず、二重螺旋構造により様々な経路選択出来るよう、巧みに設計されている。

<マイ・ツァイル 2009> ドイツ

マッシミリアーノ・フクサス設計。

フランクフルトにあるショッピングモール。各階吹き抜けの形状が異なるが、プラン自体はそこまで複雑ではない。しかし、三角形の構造体によりつくられたガラスの曲面がうねりながら挿入され、内部空間は実に複雑に感じられる。

美術館と違い、ショッピングモールはもちろん、経路が固定されるということはないが、通常内部空間は単調になりがちなのに対して、このショッピングモールは訪れる人に散策の楽しさを与える設計となっている。

結

結

「巨大さ」を作り出す建築手法について考察した。今回具体例として挙げた建築は、日本国外のことが多い。このことについて筆者の考えを最後に述べておきたい。

ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展は、建築の世界的祭典である。各国の展示は、現時点での、その国の建築的潮流が示されていると言っても過言ではなかろう。2010年、ヴェネツィア・ビエンナーレの日本館は、コミッショナー北山恒、主な展示は西沢立衛の「森山邸」とアトリエ・ワンの「ハウス&アトリエ・ワン」であった。どちらも小さな建築である。西沢は日本館カタログ『TOKYO METABOLIZING』北山恒、塚本由晴、西沢立衛著 (TOTO 出版) のなかで (p.76-99)

「7つの新建築要素」

1. バラバラにする
2. 非中心性
3. 小さい
4. 環境をつくる
5. 透明性
6. 雑居
7. 境界がない

を挙げ、

「これらは、どれも、森山邸の設計の前後またはその最中に、徐々に課題として現れてきたものであり、森山邸の設計を通して発展させたいと思った、建築的原理のようなものである。」(同 p.76)

と説明をしている。「バラバラ」や「小ささ」、「透明性」に加え、境界がない「曖昧さ」は、日本の現代建築の主流となり、建築雑誌を見ればこれらの形容詞が当てはまるような建築、もしくは建築家自身が説明している建築にかならず遭遇する。

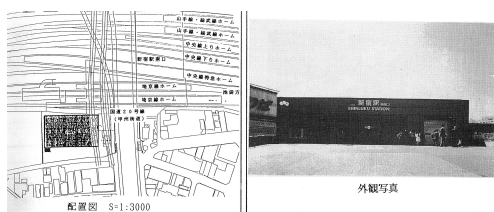
前述の通り、元来小さいものを嗜好して来た日本において、上記のようなデザインは、有効なものであるかもしれないが、同じベネツィア・ビエンナーレにおいて、西洋の建築家、例えばオラファー・エリアソンの展示は、巻き散る水滴と、瞬くストロボライトによって、暗い部屋の空間全体を感じさせるものであるし、2010年9月4日の The Global Edition Of The New York Times "Weekend Arts" のヴェネツィア・ビエンナーレ記事のトップを大きく飾ったのは、Anton Garcia-Abril & Ensamble Studio の巨大な展示写真だった。これらの展示は、「展示」という限られた空間の中で、むしろ積極的にその巨大さを印象づける設計がなされているのである。



図：ヴェネツィア・ビエンナーレ
オラファー・エリアソンの展示



図："Weekend Arts" 2010.9.4. 記事



図：JR 新宿駅新南口 配置図と外観写真

『JR 東日本駅改築事例集（東日本旅客鉄道）』（p.35）



図：スイス Basel 駅

日本人は巨大なものが嫌いなわけではない。小さなものを愛でるといのが日本人の特性であるとしても、日本人は巨大なものに感動しない、というのは一面的な見方であり事実と反する。巨大な工場に「工場萌え」とし、全国に作られた展望台から外を眺める。これも日本人の持つ一面である。

しかし、東京の街を歩き、改めて「巨大さ」を整理すると、日本の例は極めて少なかった。例えば JR 新宿駅（新南口）。『JR 東日本駅改築事例集（東日本旅客鉄道）』によれば、その意匠設計計画は

「新宿駅は、各私鉄が集中し一日の乗降客が約 1 3 0 万人／日の利用客がある全国一位のターミナル駅である。…『新宿駅から日本の四方八方へ新宿駅から世界の四方八方へ』をデザインの基本コンセプトとして、モダンでシンプル、かつ軽快な建物とした。」(p.34)

とある。設計意図で言及される通り、日本でも有数のターミナル駅である新宿駅も、実際の外観は箱形の小さなものだ。巨大さを隠した外観同様、内部でも通勤者は天井高の低い通路の移動を余儀なくされている。この「小ささ」は、機能的な面、即ち路線数や利用客の人数と言ったものからくるのではない。巨大な駅構内を広々と見せ、旅のときめきを予感させる西欧の「巨大な」鉄道主要駅は、必ずしも機能面では新宿駅に勝らないのだ。これは、意匠的な面から見られる「巨大さ」なのである。

巨大な建築空間のもつ魅力は洋の東西を問わず普遍的なものだと考えられる。巨大さを素直に受け入れ、むしろ積極的に打ち出す。こうした人々に感動を与える「巨大さ」を作り出し活かす建築設計手法を考察することは、日本に魅力的な建築空間を創出するうえで、意義のあることであると考ええる。

参考文献

参考文献

- 「我が建築界の根本的欠陥」『木片集』伊東忠太著（萬里閣）
- 『視覚と近代：観察空間の形成と変容』大林信治／山中浩司編（名古屋大学出版会）
- 『視知覚』松田隆夫著 培風館
- 『建築20世紀 1・2』（新建築社）
- 『奈良六大寺大観 第九巻 東大寺 一』（岩波書店）
- 『崇高と美の觀念の起原』エドモンド・バーク著 中野好之訳（みすず書房）
- 『伽藍が白かったとき』ル・コルビュジェ著 生田勉・樋口清訳（岩波文庫）
- 『そっと建築をおいてみると（現代建築家コンセプト・シリーズ3）』乾久美子著（INAX 出版）
- 『TOKYO METABOLIZING』北山恒、塚本由晴、西沢立衛著（TOTO 出版）
- 『新しい建築様式への道』ルドルフ・シュタイナー著 上松佑二訳（相模書房）
- 『新・ファサードシステム』大野勝彦監修 新ファサードシステム開発研究委員会（建築技術）
- 『西洋建築様式史』美術出版社
- 『東京都都市景観マスタープラン1994』（東京都）
- 『JR 東日本駅改築事例集』（東日本旅客鉄道）
- 『日本の建築空間』（新建築 2005 年 11 月臨時増刊）
- 『MODERN ARCHITECTURE BEING THE KAHN LECTURES フランク・ロイド・ライトの現代建築講義』山形浩生訳 白水社
- 『巨大建築という欲望—権力者と建築家の20世紀—』ディヤン・スジック著 五十嵐太郎監修 東郷えりか翻訳 紀伊国屋書店出版
- 『材料・生産の近代（シリーズ 都市・建築・歴史）』鈴木博之 伊藤毅 石山修 山岸常人 編集 東京大学出版会
- 『都市発達史研究』今井登志喜著 東京大学出版会
- 『『縮み』志向の日本人』李 御寧著 講談社学術文庫
- 『摩天楼—アメリカの夢の尖塔—』ポール・ゴールドバーガー著 渡辺武信訳 鹿島出版会
- 『巨大高層建築の謎 古代から現代まで技術の粋を集めた建造物のおもしろさ』高橋俊介著（サイエンス・アイ新書）
- 『コンパクト建築設計資料集成』日本建築学会編（丸善）
- 『環境建築ガイドブック』日本建築家協会環境行動委員会 編（企業組合建築ジャーナル）
- 『るるぶドバイ』（JTB パブリッシング）
- “Architecture Of The World” 全8巻（学研）

"Porche Museum" Deligan Meissl Associated Architects; HG Merz;
 Fotografie: Iwan Baan (Wien: Springer 2010)
 "Le courbusier Paris-Chandigarh " Klaus-Peter Gast (Birkhauser-
 Verlagfur Architectur)
 "Hans Schauroun" (Studio Paperback)
 "Hans Schauroun 1893-1972 "di Ada Francesca Marciano (officina
 edizioni)
 "GA Hans Schauroun The Berlin Philharmonic Concert Hall"
 "Italian Architecture 1750-1914" Carroll L. V. Meek (Yale University
 Press)
 "Festa Architektur Der Architectals Inszenierungskunstler" Werner
 Oechslin & Anja "Buschow" (Verlag Gerd Hatje Stuttgart)
 "Auditorium Parco della Musica" Renzo Piano building workshop
 (Federico Motta Editore)
 "Coop Himmelb(l)au BMW Belt, Munchen" Text: Frank R.Werner Photo:
 Christian Richters (Edition Axel Menges)
 "Neuschwanstein" Text: Gottfried Knapp Photo: Achim Bunz (Edition
 Axel Menges)
 "Rudolf Steiner Goetheanum, Dornach" Text: Wolfgang Pehnt Photo:
 Thomas Dix (Edition Axel Menges)
 "Buy me a Mercedes-Benz = the Book of the Museum" Un studio; HG
 Merz (Barcelona Actar)
 "Aus den Annalen des Zuricher Hauptbahnhofs" Merner Aeuhaus
 "Milano Centrale : Storia di una stazione" Gianfranco Angeleri & Cesare
 Columba (Banka Nazionale delle Comunicazioni)
 "UN STUDIO MERCEDES-BENZ MUSEUM DESIGN EVOLUTON" Wechsel
 Raum (Bund Deutscher Architekten BDA) AVEDION
 "Berlin Hauptbahnhof" Erich Preub (Trans press)
 "TEMPELHOF-Der Flughafen im Herzen Berlins" Helmut Trunz
 (GeraMond)
 "The Jewish Museum Berlin" Die Neuen ArchitekturFuhrer
 No.2(Stadtwandel Verlag)
 "Neuschwanstein Castle" (Bayerische Schlosserverwaltung)
 "Best High-Rises 2010/11"(Deutsche Nationalbibliothek)
 "S,M,L,XL" O.M.A.Rem Koolhaas,and BruceMau (The Monacelli Press)

「a+u：建築と都市 2008 年 9 月号」(エー・アンド・ユー)
 「a+u：建築と都市 1997 年 8 月号」(エー・アンド・ユー)
 「a+u：建築と都市 1987 年 6 月号」(エー・アンド・ユー)
 「a+u：建築と都市 2008 年 4 月号」(エー・アンド・ユー)
 「新建築 2009 年 1 月号」(新建築社)
 「新建築 1988 年 5 月号」(新建築社)
 「新建築 1993 年 7 月号」(新建築社)

「新建築 1986 年 9 月号」(新建築社)
「新建築 2006 年 9 月号」(新建築社)
「新建築 2007 年 7 月号」(新建築社)
「新建築 1965 年 6 月号」(新建築社)
「新建築 2002 年 9 月号」(新建築社)
「GA document extra 12 Norman Foster」(A.D.A.Edita Tokyo)
「GA contemporary architecture OFFICE1」(A.D.A.Edita Tokyo)
『建築ノート no.1』(誠文堂新光社)
「建築画報 1975 年 93 号 (「超高層ビルと都市環境の推移」)」(建築画報社)

参考サイト

http://en.wikipedia.org/wiki/Berlin_Tempelhof_Airport
<http://ja.wikipedia.org/wiki/>
<http://www.gloucestercathedral.org.uk/index.php?page=architecture>
http://www.salvastyle.com/menu_baroque/pozzo.html
<http://jp.chateauversailles.fr/jp/history/versailles-during-the-centuries/the-palace-construction/robert-de-cotte-1656-1735>
<http://www.mesogeia.net/athens/places/agora/stoaattalos.html>
<http://www.city.okayama.jp/orientmuseum/info.html>
<http://www.kanazawa21.jp/>
<http://www.oja909.co.jp/>
<http://www.kurobe-dam.com/kankou/index.html>
<http://www.therme-vals.ch/en/>
<http://www.myzeil.de/index.php?item=Home&lang=en>

謝辞

懇篤なご指導をくださった大野秀敏先生、本当にどうもありがとうございました。大野研究室での二年間は、私にとってかけがえのない財産となりました。

副指導教員の清家剛先生、ありがとうございます。

常日頃からたくさんのアドバイス等をくださった日高仁さん、山崎由美子さん、和田夏子さん、ありがとうございます。

共に研究室生活を送った大野研の皆さん、ありがとうございます。

スイス連邦工科大学チューリッヒ校の留学を終え、時間のなかった私に優しく手を差し伸べてくれた内藤雄太くんと鈴木岳彦くん。手を差し伸べてくれてなかったらこの論文はありませんでした。ありがとうございます。

そして共に修論を書いていたみんな、ほんとうにみんなで送ったこの学生生活というものは楽しくて、楽しすぎてもう終わってしまうのが信じられません。本当にお世話になりました。これからもよろしく願います。

最後に、影ながら支えてくれていた家族に、感謝します。



2010 年 1 月 24 日
吉川桃子